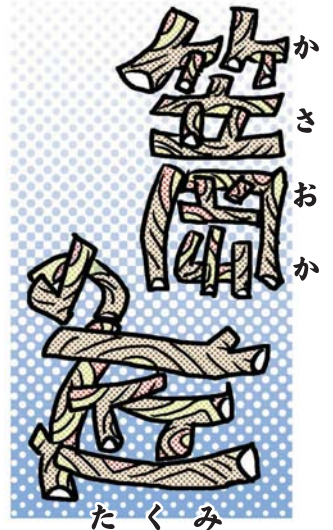




モズ(雌)

第十二回 バードカービング
藤井勝己さん(関戸)



腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。
このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介します。

30年前に雑誌でバードカービングと出会い、「息を吹きかけると羽がフワリと浮き上がりそう」な鳥たちの生き生きとした姿に強烈な印象を受けたという藤井さん。
7年前から本格的に始め、「鳥は顔の表情、羽のふくらみ、枝の止まり方など一羽一羽全く違う。」生きているような動きを表現するために繊細なタッチで彫刻し、色も多いたときには20回も重ね塗りされるそう。
「リアルカービング」を目指しているという言葉通り、藤井さんに命を吹き込まれた鳥たちは、パッと手を差し伸べると、今にも大空へ飛び立つかのような躍動感を感じさせてくれます。
小学校の授業でも教えているという藤井さんは、「一人ひとり個性が違う子どもたちが同じ作品を一年掛けて作成し、完成した時の嬉しそうな表情は何ものにもかえられない喜びです。」と笑顔で話してくれました。

展覧会と行事のご案内

つじ かこう 特別展 都路華香

近年評価の高まる華香の戦後初の回顧展。
アメリカからの里帰り作品も展示。

会期：3月10日(土)
～4月15日(日)

講演会「都路華香 〈十牛図〉の魅力と謎」

講師：今井 淳 氏
とき：3月10日(土)
18時～19時30分
※入館料のみ必要です

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

「雲の色は変化するが空の色はあまり変化しないでしょう。花鳥画は造形的に自由だからバックの処理も比較的やさしいが、風景画となると、ムチャな造形も許されぬので苦勞する。だからこそ、雲を強烈に解釈して面白味を出すこともできるんですけどね。」
竹喬の描いた風景画は、自由に対象を組み合わせたものではなく、たいてい実景がもとにある。雲が美しく輝く一瞬に出会えること、またそれを際立たせて扱うこと、そのいずれもが制作からは外せない。



ゆうぞらしゅうう
夕空驟雨

小野竹喬 作
昭和37(1962)年頃
18.6×26.5cm

竹喬美術館の光彩 51



中野素嗣



土屋武之

発行日／平成19年3月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111

係から

隔月で掲載している「笠岡の匠」コーナーは次回から3年目に突入します。様々なジャンルの芸術に取り組まれ、素晴らしい作品を創られていく匠の技に触れるたび、感嘆と尊敬の念を感じずにはいられません。
芸術と言えば、今年の秋に県内各地で開催される、第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」。笠岡市では「クイズ王選手権」などの準備が市民との協働で進められていて、今からとても楽しみにしています。(中)

今月の表紙

春を感じさせる暖かい日差しを受け、灯台へと歩いていくと綺麗な水仙が歓迎してくれています。2月6日、白石島幼稚園の園児8人が六島を訪れ、「あゆみ園」の園児4人と交流会を行いました。天候にも恵まれ灯台から見える景色は絶景。子どもたちも大はしゃぎで遊んでいました。

また12日には六島水仙ツアーが催され、市内外から大勢の人が参加し、咲き誇る水仙の美しさを満喫しました。

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています